



東日本大震災

被災地支援の取り組み

発行：曹洞宗

編集：東日本大震災災害対策本部復興支援室/復興支援室分室

発行日：2014（平成26）年8月1日

▶ 災害復興支援情報

東日本大震災の復興には、
まだまだ長い年月を要します。
曹洞宗は被災者に寄り添い
支援を続けてまいります。



行茶活動（傾聴ボランティア）の様子

被災者に寄り添う

東日本大震災発生から3年が経過しましたが、復興が思うように進んでいない地域も多く、今も避難生活を送られている方、困難な生活を余儀なくされている方は大勢おられます。

宗門では、震災発生直後から宗門関係者による継続的な被災地支援が行われており、現在も、様々な団体・個人が、地域性や独自性を発揮しながら支援活動を続けています。

昨年5月。

宗門として被災地支援を継続していく中で、宗門全般にわたるボランティア活動に資する窓口の構築が必要だと考え、福島県に曹洞宗東日本大震災災害対策本部復興支援室分室（復興支援室分室）を設置しました。

これは、全国曹洞宗青年会（全曹青）がこれまで取り組んできた被災地支援活動によって培ったノウハウやネットワークを、スタッフも含めて宗門に移管してもらい、曹洞宗として組織整備を図ったものです。

現在も全曹青と協力しながら、仮設住宅等における行茶活動（傾聴ボランティア）を中心に、様々な支援活動を行っています。



慰霊法要や被災地行脚、義援金の托鉢等、僧侶らしい活動だけでなく、仮設住宅等における傾聴ボランティアや清掃支援、子ども達に対する支援等、活動は多岐にわたっています。

活動紹介

現在、復興支援室分室が取り組んでいる主な支援活動をご紹介します。詳しくは曹洞禅ネットをご覧ください。

行茶活動（傾聴ボランティア）とは

一緒にお茶を飲みながら話を聴くことで、震災によりストレスを抱えている被災者に、心休まるひと時を過ごしていただく活動です。お話を伺う中で、被災者のニーズを把握し、地域の社会福祉協議会に報告することで、現状改善に寄与することも目的としています。

昨年5月の分室設置から1年が経過しましたが、これまでの仮設住宅等での開催回数は126回、ボランティア参加者は全曹青会員をはじめとして、117団体、延べ793人となっています。

時には他団体と連携し、協力しながら支援に当たっており、分室スタッフや活動参加者が特技を活かし、落語や狂言、水引細工教室、紙芝居を実施するなど、活動に変化を持たせながら実施しています。



行茶活動の流れ

事務所にて事前確認を行い、現地に移動して机やお茶の準備等、会場を設営します。参加者とお茶を飲みながらお話しする時間は、現在2時間を基本としており、定刻になったら片づけて撤収。事務所に帰って活動報告書を全員が作成します。

行茶活動レポート

行茶の際にお聴きした被災者の声と、活動参加者（スタッフ）が感じたこと、現地の今の様子等をレポートとしてまとめ、インターネットで発信しておりますので、ぜひご覧ください。

ボランティア募集と物資支援のお願い

復興支援室分室では、一緒に行茶活動をしてくださるボランティアを募集しております。活動は随時開催していますので、ご協力いただける方は分室までご連絡ください。

また、行茶の際に供する飲食物等のご支援をお願いしています。お茶やお菓子等ご当地のものは、話のきっかけや共通の良い話題ともなりますので、全国各地の皆さまからご支援いただければ大変ありがたいです。

なお、行茶の開催回数が多い月もあれば少ない月もあるため、物資を常時募集しているわけではありません。特に、飲食物は賞味期限の問題もありますので、支援してくださる方は、まず復興支援室分室までご連絡くださいますよう、お願いいたします。連絡先は、最後のページに記載しております。



子どもの身体と心の健康サポート

原発事故の影響により、福島の子どもたちは「外で遊ぶことができない・遊ぶ時間を制限されてしまう・高線量地域では自然に触れることができない」など、過度なストレスにさらされてきました。そうした子どもたちの身体と心の健康サポートを目的として、自然の中で思い切り遊ぶ「こども自然ふれあい広場」の開催や、電話を通じて子どもの気持ちに寄り添う「チャイルドラインふくしま」の運営支援を行っております。

こども自然ふれあい広場



放射線の影響に対する、免疫力向上のための保養キャンプです。夏休みの期間中、福島の子どもたちが外で思い切り遊ぶ場として実施しており、全曹青に加盟している青年会や地域の様々な団体の協力を得ながら、各地で開催してまいりました。

平成25年は、秋田県・長野県・愛媛県の3会場で開催。

平成26年は長野県、高知県、青森県、熊本県の4会場での実施を予定しています。

チャイルドラインふくしま



18歳までの子どもが対象の子ども専用電話で、子どもたちが抱える悩みや心配事などを聞く電話窓口です。お説教ぬき、押し付けぬき、子どもたちの声にただただ耳を傾け、電話を通じて気持ちに寄り添う活動であり、「ヒミツはまもる、どんなこともいっしょに考える、名まえは言わなくてもいい、切りたいときには、切っていい」を4つの約束事としています。

てらスクール連載「東北のげんき」

平成26年4月号より「東北のげんき」という連載を開始しました。被災地支援をしている子どもたちや団体等を紹介しています。てらスクールは寺院に1冊必ず送付しておりますので、ぜひご覧ください。



全国曹洞宗青年会（全曹青）の取り組み



全曹青では、震災直後から、青年僧の持つ熱意とエネルギーを被災地支援活動に傾けてきました。これまでの活動が評価され、平成26年3月、福島県新地町社会福祉協議会の推薦により、福島県社会福祉協議会から、「地震、津波の被災地における被災者支援や原子力発電所の事故による避難者支援のために、ボランティア活動を継続して行ってきた団体」として、他の多くの団体と共に感謝状を賜りました。全国の皆さまの全曹青に対する物心両面にわたるご支援ご協力の賜物です。

現在は「復興支援室分室」と「全曹青災害復興支援部」が協力して様々な事業に取り組んでおり、時に復興支援の受け皿として、あるいは繋ぎ手、担い手として活動しています。

曹洞宗総合研究センターの取り組み

曹洞宗総合研究センターでは、東日本大震災以降、ビーズ・ブレスレット（天然石を使用した数珠）作りを通じた傾聴活動を行い、また、被災地の幼稚園や福祉施設において、創作紙芝居の読み聞かせやキャンドル作りなどをしながら、被災者の心に寄り添う活動を展開してきました。さらに、そこから得た知見を、宗門内の様々な活動にフィードバックする取り組みも行っており、支援活動の充実に向けて、日々、研究を重ねています。



曹洞宗婦人会の取り組み



曹洞宗婦人会では、被災地の生産品購入の仲介や、東日本大震災の孤児支援を行う団体の応援をしています。また、被災地からの依頼に応じて布生地を提供し、その生地で作られた商品を購入するという自立支援も行っています。被災地の生産品購入には、全国の婦人会会員から特に高い関心をいただいております、これまで多くの売り上げがありました。

曹洞宗義援金にご協力をお願いいたします



東日本大震災復興支援及び大規模災害発生時に支援するための義援金を募集しております。皆さまの温かいご支援ご協力をお願い申し上げます。

金融機関：ゆうちょ銀行・郵便局

郵便振替：00190-2-604062

口座名義：曹洞宗義援金

ふるさと ふくしま故郷再生プロジェクト

原発事故により、避難生活や放射能汚染の影響を受けている福島県宗門寺院と檀信徒から、地域の実情等について、現地で聞き取り発信していく長期プロジェクトです。ふくしまの故郷再生のために声を「聞き」とともに「考え」「行動する」ことを目的にしています。

向きあう 伝える 支えあう

被災地では用地買収の問題、作業人員や資材の不足等によって全体的に復興計画が遅れており、被災者の更なる身心ストレスの増大が懸念されています。震災が風化し、特に傾聴に関する支援団体が少なくなっている現状において、行茶活動を中心とした宗門の取り組みは、今後ますますその必要性・重要性が増していくと考えられます。

宗門では、これからも、被災者を取り巻く諸問題と真摯に向き合い、支援活動を継続してまいりますので、皆様にはこれまで同様に、ご理解ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

東日本大震災復興支援に関する取り組みの一端を紹介させていただきましたが、紙幅の都合上、記載できなかった活動や報告等もありますので、曹洞禅ネットの災害復興支援情報を、ぜひご覧ください。

ボランティア参加や支援のお申し出などは、復興支援室分室までご連絡ください。

〒960-8034 福島県福島市置賜町1-29 佐平ビル8-805 TEL: 024-563-4305

